

市原市認知症対策連絡協議会 例会議事録 (2023 年度第 33 回例会)

日時：2023 年 7 月 20 日(木) 19:00~20:30

場所：五井公民館

出席者：32 名

司会：飯吉

内容：

1. 開会の挨拶

市原市認知症対策連絡協議会 会長 小沢 義典医師(千葉ろうさい病院)

2. 「市制 60 周年記念イベント」の説明

福田 卓美施設長(特別養護老人ホーム グランモア和光苑)

- ・市が応援してくれる形式をポスターやアナウンスすることで市民の目に留まりやすく、集客に繋がることに期待をしている

・RUN伴イベントの経過

2017 年：一般参加 232 名+ボランティア 81 名の計 313 名参加

2018 年：一般参加 146 名+ボランティア 132 名の計 278 名参加

2019 年：一般参加 178 名+ボランティア 110 名の計 288 名参加

2020 年：新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止(全国的に)

- ・いちはら認知症あんしんフェスタとRUN伴+のコラボ開催について検討

開催会場案①アリオ市原+上総更級公園 ②ユニモちはら台+ちはら台公園

→本日の例会で意見交換、実施する場合には日程や会場だけでも決定したい

開催候補日 10 月 28 日(土)ユニモ・アリオ

10 月 29 日(日)アリオ

11 月 5 日(日)アリオ

12 月 2 日(土)ユニモ

<質疑/意見>

- ・更衣室の準備⇒簡易テント設置
- ・音響⇒準備の問題なし
- ・フェスタを 10 時~15 時、RUN伴+を 10 時~12 時まで等の時間の工夫はどうか
- ・開催はフェスタ中心として、RUN伴+は天候次第か

3. 「いちはら認知症あんしんフェスタ」と「RUN伴+」の説明

市原市認知症対策連絡協議会 事務局長 飯吉 裕樹(介護老人保健施設なんな苑)

- ・『RUN伴+いちはら』Tシャツ

ふる里学舎さんの協力により印刷を行っていただけることになった。

デザインをどうするか 案①RUN伴三浦半島さんに依頼…デザイン料 3 万円

案②プロではなく個人推薦等で公募

4. グループワーク

今後の市認協の方向性やイベントに対する意見交換(5~6名ごとにグループ分け)

<Aグループ>

- 1日でフェスタ・RUN伴+の同時開催がよい
- 日程は11/5(日)市原アリオ
- 実施方法：AM フェスタ(10-13)、PM RUN伴+(14-15)はどうか
→ボランティアの行き来なく集中してそれぞれに参加ができる、
別々に実施すると一体感にかけてしまうのではないか

大喜利はぜひ

<Bグループ>

- 両イベントとも開催はしたい
- アリオ市原は混み合い人通りが多いが、興味を持って来てもらう工夫が必要
広報の仕方⇒市原市の公式LINEの活用、60周年の冠をつけてアピール
- 日程は学校の行事等を調べた方がよいのでは
- 同時開催は難しいのでは
- (薬剤師)土曜日の参加は営業などで難しい。屋外だと分包機が衛生面から使用出来ない

<Cグループ>

- 11/5は三連休の最終日なので避けたほうがよいのでは
- 日程は10/28(土)市原アリオ
- (包括)土曜日に開所しているので、職員が確保しやすい
- Tシャツの印刷はふる里学舎さんをお願いして、デザインは辰巳萬緑苑さんはどうか
- 市認協の活動として、出張相談はどうか。生涯学習センターに講師派遣の登録をして、
様々な集まりに呼ばれるかたちはどうか

<Dグループ>

- 土曜日、アリオ市原で開催がいいのでは
- デザインはふる里学舎さんをお願いする
- ポスターはAIを使用したり、過去の集合写真を使用しても
- プロジェクトのあり方として、顔の見える関係性作りからプロジェクトをしぼり、
ネットワーク作りの原点回帰を⇒一般の人も参加しやすい環境づくり

<Eグループ>

- 会場はアリオ市原の方が参加者が来場しやすい、10/29(日)か11/5(日)
- 来年はユニモちはら台にしてアリオ市原との交互開催も視野に
- フェスタの内容としては、相談ブースや展示、子供向けの体験ブースなどもどうか

<Fグループ>

- 日程は10/29(日)アリオ市原(市原市精神保健福祉フェスタの日程とずらしたい)
- フェスタとRUN伴+の繋がりをどうするかは課題⇒RUN伴の様子をフェスタの

会場に映すことはできれば

Tシャツデザインは施設の利用者に公募するのはどうか。落選した作品は、当日フェスタの会場に展示する

認知症を知ってもらうような映像を流すのはどうか(県の貸出等)

会場で認知症サポーター養成講座を開催するのはどうか

<その他>

認知症介護ロボットのラボット(コミュニケーションロボット)の参加はどうか
(ふるさと苑さんにある)

5. 意見交換

- ・市認協の会議の在り方として、[困っていることにどう対処するのか] が主であると考えるが、本会議ではフェスタやRUN伴+の話題ばかりになっている。どのように活動をすれば役に立てるのかを時間がある限り話し合うべき。
- ・困っている人について話し合うことが目的で、その手段としてコミュニケーションをとる場がある。手段も目的に入ると思うが、どこからいくのか、どの方法を話し合うことも大事である。
- ・市の困ったケースは主に認知症初期集中支援チームの千葉ろうさい病院と包括が対応している。困ったことの内容はヘビーで、そのことをこの場で話し合うことは困難。市民とふれあい知ってもらう場を作る、継続する活動を検討してきており、オフィシャルな環境があってもよいのでは、それを探っていく。
- ・ざくばらんにそれぞれの職種で困っていることを相談する。具体的に市認協としてプロジェクトを組んで解決。関係者のみではなく、市のボランティアや民生委員など関係者に声掛け、広く集まり対応できることを考えていければいい。
以前は市議会議員も来ていた。
- ・市認協を知ってもらう為、市の公式LINE、ツイッター、フェイスブック等SNSで発信するのもどうか。市原市の情報配信メールは登録すると会員にメールが届き、受けたい情報は選べる。
- ・フェイスブックに「いちはら元気会」という非公式のグループがある。
民間・公式問わず宣伝できるものがあれば活用したい。

6. 閉会のあいさつ

市原市認知症対策連絡協議会 副会長 永野伸一医師(市原市歯科医師会、永野歯科医院)